

普及活動検討会実施報告書

(美里) 農業改良普及センター

実施月日：令和7年2月6日(木)

実施場所：美里農業改良普及センター

1 検討内容

No	検討項目
1	土地利用型農業法人の経営戦略と持続的経営の展開
2	北浦梨産地活性化に向けた、ICT活用による栽培の見える化
3	堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上

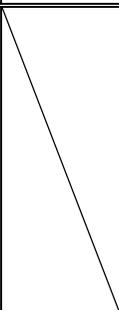
2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	3	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント、評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
土地利用型農業法人の経営戦略と持続的経営の展開	4.2	<ul style="list-style-type: none">・雇用により品目選定、販売方法、機械購入、経費などが変わってくるので今後も支援をお願いします。・営農の継続には人材の確保と通年の仕事の確保が重要だと思う。・法人の将来ビジョンの実現と経営体制の強化に向け、着実に取り組みが進んでいると思う。今後、農業者が減少する中、地域計画とも連動しながら地域を牽引する組織になることを期待します。なお、構成員には、新規就農者、兼業農家、副業的に農業に従事するもの等、様々な形態の人が働ける環境の構築に向けた視点もあれば良いと感じました。・オペレーターの高齢化を踏まえ経営の継続性を確保し、担い手として経営の安全性の向上が必要である。労働力を確保し、将来に向けた人材確保のためには作業・収入の周年化が重要である。さつまいもの拡大や長ねぎへの取組により、法人としての人材確保につなげていただきたい。人材確保による人件費等の経費増や従事分量配分額の減少等をどうバランスと取り、組合員の理解を得ていくかが課題となると思う。・周年作業、高収益作物の導入、代表理事の報酬見直しから人材確保の重要性の認識強化が必要と感じた。・役員の奉仕により組織活動が支えられている任意組織が多い中で、法人化	<ul style="list-style-type: none">・専門家相談会を4回開催し、設備投資、人材雇用、役員報酬、高収益作物の導入など将来ビジョンの策定を支援しました。・水稻収穫作業の効率化と大豆乾燥調製による冬期作業の創出のため、補助事業を活用してライスセンターが導入されました。・サツマイモ 30a の収量は 1,121kg/10a、所得率 46% と良好で、長ねぎ 15a は所得率は低いですが、冬期作業の創出に有効でした。・専門家等と連携し、部門別収支の把握や営農計画の見直し、周年作業の平準化、所得の安定確保、人材確保の認識強化による持続的な経営展開に向け支援していきます。

		<p>した当該組織において役員報酬が見直されたことは、奉仕から対価へと組織の認識が大きく変わる機会になったと思います。地域雇用の場になることは地域貢献に繋がり、収支分析を通じて経営資源に応じた栽培体系の確立に向け、今後も連携し継続的な支援をお願いします。</p>	
<p>北浦梨産地活性化に向けた、ICT活用による栽培の見える化</p>	<p>4.0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用による栽培の見える化支援で、データの蓄積と分析の見方が部会員同士で共有できるようになると経営に大変役立つと思います。 ・気温など観測ポイントが増えれば気象状況のデータが取れると思う。 ・農業経営は「職人の技」のところがあり、栽培環境、病虫害発生、経営の「見える化」について、着実に進んでいることについて評価します。この取り組みにより蓄積された多くのデータが地域の生産者で共有されることで、生産者の所得の向上に繋がることを期待します。なお、ICT活用した管理手法は、他の園芸作物でも活用が可能ではないかと思いました。 ・若手生産者や新規参入者にとってノウハウの数値化やデータ化、さらにはスマート農業等の新しい技術の導入は、農業の魅力向上やモチベーションの維持・向上に必要である。まずは、若手や新規参入者を中心に取り組みを進め、熟練生産者へ広げていくことで、データと熟練の技術の融合を図り、より高度な成果につながるよう進めていただきたい。 ・データの共有が全体へ好影響を及ぼすことを期待します。 ・技術継承や経営改善のためのデータ蓄積は有用であり、継続的なデータ収集、分析によりデータの価値が高まり、情報共有や活用が活発になると思うので、引き続き支援をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北浦梨は栽培面積約 10ha、生産者数 40 人（部会員 35 人）の産地で、若手生産者が継承、法人が新規参入することになりました。 ・2 者の園地に環境測定機器を設置し、鹿島台アメダス観測地点と凍霜害警戒時期の気温データを比較して、北浦の夜温が低いことを把握し、梨部会員にも周知しました。 ・若手生産者の園地にナシヒメシクイのフェロモントラップを設置し、発生消長のデータをメッセージングアプリケーションで情報発信し、適期防除等を支援しました。 ・若手生産者等の令和 5・6 年の生産費等を聞き取り経営管理の習得を支援しました。 ・ICT活用による気象条件、病虫害防除、栽培管理、経営管理を電子データで記録・整理・蓄積し「見える化」することと、情報共有等のネットワーク化により、若手農業者等の技術・経営ノウハウの習得と梨部会員内での活用を支援してゆきます。

<p>堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の改善</p>	<p>4.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試験成果がわかりやすく、地域への普及を行ってほしい。他地域では堆肥の確保が課題になると思います。 ・耕畜連携による農地への堆肥散布による地力向上は良いと思います。 ・生産資材価格が高騰する中、耕畜連携の取組みが進み、地域資源の有効活用が着実に進んでいることについて評価します。国や県が進めている、環境に配慮した農業生産の取組みにより、作物の収量増加、合わせて農家の所得向上に繋がってほしいと期待します。 ・土づくりにおいて、有機質肥料の施用が地力の維持・増進にもつながると考えられる。堆肥の有効活用を促進するためにも効果の検証及び他の生産者への情報提供をお願いしたい。堆肥利用促進のためには、堆肥の確保、運搬や散布が容易にできることも重要であるため、堆肥利用の仕組みづくりも必要だと思う。 ・地域特性あった活動であり、更なる可能性の拡大を希望します。 ・堆肥施用により増収したことで堆肥の有効活用が進むと思いますが、畜産農家が減少する中、広域的な耕畜連携の整備が必要と考えます。夏黄金の品種特性を踏まえ、適期施用、労力軽減の観点から基肥一発体系の試験に御協力願います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・涌谷町では14経営体が163haの麦作に取り組んでおり、令和6年度から2か所の堆肥ストックヤードが整備され、小麦への3月堆肥散布により約30%の増収効果が確認されています。 ・従来の減分期一括追肥に変えて、穂揃期葉面散布追肥を試験した結果、慣行と同等以上の収量品質を得られたが、適期が短く田植時期と重なるため、令和7年度は基肥一発体系の資材利用に取り組んでいきます。 ・肥料・資材価格が高騰する中、耕畜連携、地域資源の堆肥の活用、施肥方法の改善も含めて他地域への波及に取り組めます。
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・農業の経営環境は厳しく、普及活動や研究の成果に期待しております。 ・人材確保が重要課題なので、新規就農者等の営農支援をお願いします。 ・持続的な地域農業に向けては、JA、普及センター、市の連携は重要であることから、引き続きご協力、ご支援をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者の高齢化や担い手不足により、2030年には経営体が半減するとされており、担い手の育成確保が重要なので、ICT技術の活用、新規就農者の育成、法人経営への支援を行い、持続可能な農業経営の実現に向け取り組んでいきます。 ・委員の意見を参考に、関係機関と連携して効率的な普及活動を推進していきます。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する